

1996年度財団法人日中医学協会助成報告書

— 学術交流に対する助成 —

1996年6月13日

財団法人 日中医学協会
理事長 中 島 章 殿

報告者氏名 山西 弘一 
所属機関名 大阪大学医学部 細菌学
職 名 教授
所 在 地 〒565 吹田市山田丘2-2
電話 06-879-3311 内線 _____

◎添付書類：講演集等学会に関する資料

学会・学術交流の名称 第2回日中ウイルス学会
テ ー マ 日中ウイルス学交流
主 催 団 体 中国微生物学会 日中ウイルス学会
代 表 者 朱 関 福 (中国側) 山西 弘一 (日本側)
期 間 ・ 開 催 地 1996年6月1日 ~ 6月8日 中国四川省成都
招 へ い ・ 派 遣 目 的 _____

I. 招へい・派遣研究者 人数 _____人

1) 氏 名 (漢字) _____ 英文名 _____ 男・女
所属機関、職名 _____ 生年月日 _____
所在地 _____
電話 _____ 内線 _____

研究課題 _____

II. 滞 在 期 間 自 _____年 _____月 _____日 至 _____年 _____月 _____日 (_____日間)

III. 助成金の使途内訳

助成金額 300,000 円
交通費 _____ 円 宿泊費 _____ 円 食費 _____ 円
雑費 _____ 円 他 300,000 円 (学会助成金)

・ 招聘派遣研究者記入欄が不足の場合は別紙に追加添付して下さい。

IV. 主な滞在日程

1996年6月1日 日本出発

6月2日 成都着

成都市内視察・学会準備

6月3日



学会出席

6月5日

6月6日



桂林市内視察

桂林医学院附属病院等

6月7日

6月8日

広州市内視察

中山医科大学

帰国

V. 学術交流報告

今回は第2回の日中ウイルス学会で中国四川省成都に
両国利約110名の参加で行われた。前々日の6月1日に
関西空港に集合し総勢40人の日本側参加者が広州経由で
成都に到着した。実際の学術交流は6月3日の午前9時
より開会式が始まった。続いてworkshop 1の「インフルエンザ」
ウイルスのセッションより日中両国の座長の司会で講演が行われた。
全体では10セッション、103演題が行われた。

4年前の前回の学会に比べ両国の科学的レベルの向上が
感じられた。特にエイズの研究は前回にはあまり盛んでは
なかったが今回は盛況であった。

二日目の夜には両国のプログラム委員の懇談及び
懇親会が行われ、今後は両国で更にプログラムを練り
特に若手の交流を持ちたいとの提案が行われた。

次回第3回日中ウイルス学会は3年後に中国で行われる
予定である。